

2020年5月10日 復活節第五主日・要約

(ヨハネ 14:1-12)

司教 ミカエル松浦悟郎

10年ほど前でしたが、ある研究者に紹介されて、日本の中にある共同体を見にいったことがありました。宗教団体がやっているわけではありませんが、彼らは現代社会の生活の在り方に問題点を感じ、自然を大切にしながら共同生活をしているのです。物々交換や労働提供、地域通貨を使うなど、ゆるやかな地域共同体もあれば、100人～200人もの人が本当に収入を分け合い、共同生活しているところもありました。もちろん、理想は素晴らしくても、それを保つためのルールを作ったり、具体的な生活様式を決めたり、またそれを世代を超えて継続していくとなると、さまざまな問題が出てくるだろうと感じました。

このような共同体を実際に実現していくためには、しっかりとした「理想」、「確信」、それを動かしていく「熱意」が必要ですが、メンバーが広がり、世代が交代していくと、それを受け継いでいくのは容易なことではありません。

使徒言行録 2 章によると、初代教会はイエスの復活の喜びから、多くの人々が洗礼を受け教会が広がっていき、また「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った」(使徒言行録 2:44～45)という理想的な共同体をつくっていました。ちょうど、先ほど紹介した共同体のようです。しかし、当然、問題も起こってくるわけです。具体的には、今日の第一朗読に記されているように(使徒言行録6:1～7)、食べ物の分配をめぐる共同体の中に差別が起こったのです。弟子たちはその問題に対処するために、7人の信頼置ける人を選び、その問題にあたらせることで、その問題を乗り越えようとした。それが、今の助祭にあたる人です。

掲げる理想と具体的な問題をどのようにバランスを取っていくかは初代教会も今も大きな課題になっています。

この問題に一つのヒントが与えられた映画がありました。インドの独立の父、ガンジーの映画です。この中でとても考えさせられた場面がありました。ガンジーは、差別の無い理想郷をつくらうとしました。そこは、カーストのようなインドに根づく激しい差別が一切無いユートピアのような共同体です。ある日、ガンジーの妻がトイレ掃除の当番に当たりましたが、身分の高い彼女はそれを拒みます。ガンジーは「ここでは差別がなく、誰もが同じように掃除するのだ」と説得します。しかし、彼女はどうしてもやらないと主張します。すると彼は、彼女を激しくドアのところまで追いやり、「掃除をするか、ここを出るかどちらかだ」と詰め寄ります。彼女は泣きながら「私はあなたの妻ですよ」と言います。それを聞いたガンジーは、頭を抱えて座り込み、「悪かった、もう部屋に戻りなさい」と言います。ガンジーはどういう意味でトイレ掃除をしなくて良いと言ったか考えさせられました。今思うことは、これは、必ずしもガンジーが理想を捨てたわけではなかったということです。それは、今日のイエスの言葉からヒントを得ました。

イエスは、「私は道である」と言われました。道とは、目的地に通じる方向性です。従って、まずはどこに行きたいのかという目的地をはっきりさせ、そこに至る道を歩みたいという意思を持たなくてはなりません。その時に、その道をどこまで行ったかとか、どのくらいのスピードで走ったか、ということを中心にするではありません。道の途中では、休んだり、転んだりするでしょう。しかし、その時に、他の道に行く選択肢もあるでしょうが、大切なことは、それでも起き上がったら再び同じ道を歩むという意思を持つことなのです。その道を選んだということは、すなわち、イエスを選んだことなのです。

ガンジーが妻にトイレ掃除をしなくてもいいと伝えたのは、理想をおろし、あきらめたからではないと思います。彼女も、ガンジーの理想である「差別のない社会」に向けた試みに賛同し、その共同体と一緒に生活をはじめたと思います。そして、身分に関係なく人々と一緒に生活を始めたのです。このことは彼女にとっては大きな壁を乗り越えていくことだったと思います。しかし、身分のもっとも低い人がするトイレ掃除をするところまではいかなかったのです。ガンジーのはじめの対応は、やるか、出ていくか、の二者択一でした。それは、たとえ理想を共有していても、いきなり現実の自分に「あるべき理想」突き付けて、できるかできないかを問うてしまったのです。ガンジーがそれを思いとどまったのは、もちろん、彼女が自分の妻であることと、彼女の中に、その理想を生きようと努力していることを知っていたからだだと思います。ガンジーは、掲げた理想だけを貫くのではなく、足りなくても、理想を生きようとしている彼女を受け入れる方を選んだということです。

ちなみに、その映画ではガンジーがトイレ掃除をしなくてもいいと言った後、彼女はこう言うんですね。「あなたも疲れているでしょう。どうぞ、お休みください。私はトイレ掃除をしますから」と。そう言えたのは、トイレ掃除までは出来ないにしても、理想に向かって歩もうとしている自分をガンジーが受け入れてくれたと感じたことが、彼女を一步前に進ませたのだと思います。

イエスは、「私の家には住むところがたくさんある・・・私がいるところにあなたがたもいることになる」と言われました。それは、来世のことだけではなく、その道を歩むこと、それ自体が住むところであり、そこにイエスがいます。イエスの道は、単に目的地に行くための手段だけではなく、目的を先取りして実現しているのです。その道を歩むことそのものが、イエスと共にいることであり、「いのち」を得ていることでもあるのです。

私たちは、なかなかイエスの言葉通りに生きられない弱さがありますが、その方向に向かって歩み続けることはできます。その歩みが続けば、イエスはその中に共にいて力づけて下さいます。そのことによって、歩むこと自体が喜びとなっていきます。今一度、イエスの道を歩んでいく決心を新たにしましょう。